

「丹後の海の恵みを生かすアクションプラン」の推進状況

(H17年度策定、H18年度「ブランド化部分」改定)

1 趣旨

つくり育てる漁業で培った新たな技術を活用するとともに、体験型の海業等を最大限に生かし、観光分野等の他分野と連携を図りながら、漁業、漁村の活性化を目指す。

2 重点施策

(1) 基盤づくり～藻場造成による基盤整備

【藻場（海の森）造成の推進、有用海藻の増養殖の促進】

目標

藻場の造成面積 10ヘクタール造成（H17からH22年度）

(2) つくり育てる漁業による海の恵みづくり～磯根資源を活用したつくり育てる漁業の振興と地域特産品の育成

【アワビのつくり育てる漁業の振興、ウニ類や海藻類などの未利用な磯根資源の計画的な利用促進、地域特産品の生産体制の整備】

目標

アワビの生産額 36百万円（H11～15年度） → 1億円（H21年度）

磯根資源の生産額 3.7億円（H11～15年度） → 5億円（H21年度）

(3) 消費拡大とブランド品づくり～ブランド化と流通販売対策の強化

【計画的な生産が期待できる丹後とり貝、イワガキ等を主な対象としてブランド化の推進、流通販売対策の強化】

目標

トリガイの生産額 13百万円（H17年度） → 1億円（H21年度）

イワガキの生産額 1.7百万円（H17年度） → 1千万円（H21年度）

アワビの生産額 75百万円（H17年度） → 1億円（H21年度）

(4) 新たな海の魅力づくり～海業の新たな展開

【観光定置網等の海業の質的向上、新たな拠点の整備、遊漁等の振興】

目標

観光定置の実施地区数 1地区（H16年度） → 3地区（H21年度）

(5) 人づくり～担い手の確保・育成

【担い手の確保・育成、経営開始資金対策】

目標

潜水漁業への新規就業者数 5人（H17～H21年度）

トリガイ育成業への新規就業者数 5人（H17～H21年度）

イワガキ育成業への新規就業者数 5人（H17～H21年度）

2 主な取組状況

(1) 基盤づくり～藻場造成による基盤整備

□藻場の造成実績等

・藻場の重要性

藻場は、アワビ・サザエ等の磯根資源の生息場や、魚類やイカ類の産卵場及び幼稚仔保育場として、漁業生産に重要な役割を果たしている。また、これら海藻類は、水質悪化の原因となる栄養塩類（チッ素、リン等）を吸収することで、沿岸海域の水質浄化に寄与するとともに、海水中の二酸化炭素を吸収・固定するため、地球温暖化防止の観点からも、重要な役割を果たしている。

・府沿岸海域の現状

本府沿岸海域には、ホンダワラ類やアマモ類で形成される藻場が存在しているが、ウニ類等の植食性動物による食害や水質悪化等により、藻場が縮小、消失する懸念がある。これら既存の藻場を維持、管理するとともに、積極的に藻場の拡大を図るために、海藻類の繁茂に有用な基質を設置する取組や漁業者及び地元関係者等による藻場の保全活動の推進を図っていく必要がある。

・藻場造成の実績と計画

年度	府直営事業分 (目標6ha)	市町事業分	漁港海岸施設関係 事業分(府・市町)	合計 (目標10ha)
H17～H20 (実績)	3.63ha	0.45ha (舞鶴市竜宮浜)	2.21ha	6.29ha
H21(実績)	1.24ha	—	0.68ha	1.92ha
H22(計画)	1.20ha	—	— (未定)	1.20ha
計	6.07ha	0.45ha	2.89ha	9.41ha

(府直営事業分の実績及び計画)

H17年度	宮津市養老地先	0.73ha	(事業費55,200千円、自然石投石、コンクリート礁6基)
H18年度	舞鶴市田井地先	0.57ha	(事業費29,970千円、自然石投石、コンクリート礁3基)
H19年度	宮津市田井地先	1.24ha	(事業費77,500千円、自然石投石)
H20年度	舞鶴市野原地先	1.09ha	(事業費76,000千円、自然石投石)
H21年度	宮津市島陰地先	1.20ha	(事業費76,000千円、自然石投石)
H22年度	(未定)	1.20ha	(事業費58,000千円、未定)



舞鶴市野原地先
造成作業 (左：H20年)

宮津市養老地先
造成域に繁茂したホンダワラ類
(右：H19年)

□ **造成藻場の活用状況**（例；宮津市養老地区、H17年度造成）

・「潜水(素潜り)漁法」導入によるアワビ栽培漁業推進

平成18年度から、新たに「潜水(素潜り)漁法」が導入され、磯根資源（アワビ、イワガキ等）の漁獲量が増加、また種苗購入積立金制度（漁獲金額の5%を種苗購入費に積立）を導入し、造成藻場等も活用して、地元関係者によりアワビ等の栽培漁業が推進されている。

②1 潜水(素潜り)漁業の主な実績【7/1～8/20】

操業者；17名（延べ170名）、漁獲量；約1ト、漁獲金額；約330万円
種苗購入積立金（約16万円＝放流アワビ種苗約4,000個、@42円/殻長30mm）



養老地区での潜水（素潜り）漁業風景

・ 漁業者による藻場保全の取組

京都府では、平成21年度に「京都府環境・生態系保全協議会（参画団体：漁協、漁連、(財)水産振興事業団、沿海市町、府）」を設立し、漁業者による造成藻場だけでなく既存の藻場も対象とした保全活動の効果的な実施と藻場のモニタリング調査、食害生物駆除、母藻の設置などの取組を支援している。

平成21年度には「舞鶴市藻場保全活動グループ（漁業者81名）」が藻場造成を行った田井地区を含む4地区（田井、三浜、小橋、舞鶴湾口部）でホンダワラ類（アカモク）、クロメを対象として活動を開始。

平成22年度からは、新たに宮津市の活動組織も参画し、藻場造成を行った栗田田井、島陰、養老の3地区でホンダワラ類（アカモク）、ワカメを対象とした保全活動を行うこととしている。



クロメ母藻



潜水によるモニタリングの様子

（ともに舞鶴市藻場保全活動グループ提供）

(2) つくり育てる漁業による海の恵みづくり

～磯根資源を活用したつくり育てる漁業の振興と地域特産品の育成

□栽培漁業推進のための「種苗購入積立金制度」の導入

アワビ等の栽培漁業を推進するために、漁獲金額の一部を種苗購入費として積み立てる種苗購入積立金制度導入を普及中

○種苗購入積立金制度の導入実績

沿海3市1町管内のうち、2市1町管内（計6地区）で導入済み

（各地区：漁獲金額の概ね0.5%～5%拠出、府全体積立額：約720千円）

- ・舞鶴市漁協管内：田井地区⑱導入（積立額：⑳約150千円、㉑約120千円）
- ・宮津市漁協管内：養老地区⑱導入（積立額：⑳約190千円、㉑約250千円）
- ・伊根町漁協管内：本庄地区、蒲入地区従前から導入、新井崎地区、朝妻地区⑰導入、伊根地区⑳導入
（5地区積立額：⑳約350千円、㉑約350千円）

（今後の計画）

種苗放流数を増やしていくため、舞鶴市野原地区及び竜宮浜地区、宮津市栗田田井地区などのほか、丹後町・網野町・久美浜町の各管内での導入を積極的に指導していく。

○アワビ、サザエ種苗放流実績（含；府外産種苗）

	アワビ	サザエ
平成19年度	164千個	303千個
平成20年度	121千個	252千個
平成21年度	126千個	250千個

※平成21年度は見込み
放流サイズ

アワビ；平均殻長 約30mm

サザエ；平均殻長 約15～20mm



アワビ放流
（透明波板に種苗を付け放流）

□クロアワビ養殖の推進

○クロアワビは、地元観光業者などから新たな特産品として期待されており、現在、府栽培漁業センターが開発した小型水槽を活用した「簡易式陸上養殖」を普及中

【伊根：2地区、京丹後市：2地区、舞鶴市2地区】



□漁業によるアワビの生産額（⑰～⑲農林統計、⑳～漁連速報値）

⑰81百万円 ⑱81百万円 ⑲64百万円 ⑳48百万円 ㉑37百万円

□磯根資源の生産額（⑰～⑱農林統計、⑲～海面生産高資料（参考））

⑰402百万円 ⑱393百万円 ⑲483百万円 ⑳440百万円 ㉑362百万円

(3) 消費拡大とブランド品づくり～ブランド化と流通販売対策の強化

・**丹後とり貝の生産規模拡大の支援**

○漁協による育成筏整備に対し支援（⑱～、筏整備1,900千円/台、補助率1/2）
また、漁業者の育成管理技術の向上及び経営安定化の研修会を開催。

*リース用等の育成用筏整備支援（補助先；漁協）

年度	舞鶴市漁協 整備筏数	宮津市漁協 整備筏数	府内トリガイ育成 経営体(従事者)数
H18	3基	2基	18経営体(36名)
H19	3基	2基	20経営体(36名)
H20	3基	2基	23経営体(46名)
H21	—	2基	24経営体(51名)
計	9基	8基	

・**丹後とり貝、イワガキの消費拡大の支援**

○府漁連が市町、観光協会等と連携して、丹後地域での丹後とり貝等の消費量の増大を促進するために行う丹後水産物利用拡大キャンペーンに対し支援

*丹後とり貝・イワガキを対象にキャンペーン実施

(舞鶴市及び宮津市の旅館及び料理店が参加)

地元41店舗が参加、地元での販売増加額 15,000千円

⑲ 地元45店舗が参加、販売増加額 8,000千円
⑳ 地元44店舗が参加、販売増加額 10,000千円

*丹後とり貝及びイワガキを利用した料理提供店の紹介マップ作成(3.5万部)

*舞鶴かきグルメ(岩がき丼)キャンペーン 提供数約4,000食(約600万円)

*「丹後とり貝」、「育成イワガキ」試食会、PR(東京都、名古屋市)

・**丹後とり貝のブランド認証状況**

*平成20年5月19日：「京のブランド産品」に認証(水産物として初めて)

平成21年度には宮津湾を追加指定(舞鶴湾、栗田湾と合わせて3か所)

*平成21年12月4日：「地域団体商標」に登録(水産物として間人ガニに続き2例目)

・**丹後とり貝の生産実績**

H21年 12.0万個 73百万円
(規格外を含む全体；12.6万個、75百万円)
H20年 9.5万個 48百万円
H19年 10.2万個 56百万円
H18年 7.3万個 36百万円
H17年 2.4万個 13百万円

・**イワガキ(育成)の生産実績**

H21年 2.9万個 5.8百万円
(3年前の種苗配布数が少なかったための減少)
H20年 4.0万個 9.7百万円
H19年 4.1万個 9.9百万円
H18年 3.3万個 8.3百万円
H17年 0.9万個 1.7百万円

(4) 新たな海の魅力づくり～海業の新たな展開

□ **新たな定置網体験実施地区の整備**

- ・湊漁協（京丹後市久美浜町）では、地元観光協会と連携して、平成20年度から、新たに観光定置網漁体験の取組を開始。（宮津市養老地区に続いて府内2地区目）

	21年度	20年度
実施期間	4月30日～9月22日	8月11日～9月29日
実施回数	18回（乗船者計82名）	4回（乗船者計16名）
実施内容	定置網2箇所の見学と漁獲体験、漁船によるクルージング。	

- ・参考
 - *養老地区の定置網体験者数 ㊶実績：約700名/年、体験料収入：約170万円/年
 - *京都府漁協（舞鶴市野原地区）でも大型定置網見学を実施（㊶実績：約60名/年）

□ **新たな漁業体験実施地区の整備**

- ・京都府では、海業（漁業体験等）の新たな拠点を整備するため、平成18年度に舞鶴市竜宮浜地区の漁村活性化施設「ととのいえ」*の整備を支援

- *規模：木造平屋建て203㎡（舞鶴市漁協竜宮浜支所の事務所も兼ねる）
- 事業主体：舞鶴市漁協（総事業費 約8,000万円）
- （補助対象事業費約7,000万円、府補助金（国庫1/2含）約3,700万円）

- ・「ととのいえ」では4～12月に、地びき網などの漁業網体験や冠島遊覧ツアー、朝市の開催や鮮魚販売など、各種取組が開始されている。

- *平成19年度実績：施設利用者数 約1.4万人（売上額；約600万円）
- 平成20年度実績：施設利用者数 約1.3万人（売上額；約700万円）
- 平成21年度実績：施設利用者数 約1.5万人（売上額；約800万円）

□ **その他の海業実施状況**

- ・漁港めし：伊根町蒲入（H15年開始 ㊶実績：約2,400名、売上額：450万円）過去最高
- ・教育旅行：舞鶴市野原（H21年開始 ㊶実績：1校（5年生88名、他9名が4件に宿泊）
- ・海上タクシー：伊根町伊根（H19年開始 ㊶見込：4,000名以上）過去最高
- 京丹後市丹後町中浜（H21年開始 ㊶実績：8/2～10/4 約200名、30万円）



「ととのいえ」での鮮魚販売



海上タクシー

(5) 人づくり～担い手の確保・育成

□外部からの潜水漁業等への新規就業状況 (単位；人)

漁業種類	H17	H18	H19	H20	H21	計	目標(H17～H21)
潜水漁業	—	—	3	3	1	7	5
トリガイ育成業	—	1	1	0	0	2	5
イワガキ育成業	—	0	0	1	0	1	5
計	—	1	4	4	1	10	15

(漁業者の上記漁業への参入実績、H18～H21)

潜水漁業；16名、トリガイ育成；22名、イワガキ育成；0名

新規就業支援の主な取組

・潜水漁業

*潜水技術講習会の開催 (⑱, ㉔ 協力機関；海洋高校) 2回

*素潜り漁での資源管理等研修会 (⑰～㉑) 5回

・トリガイ育成

*リース用等の育成用筏整備支援 (補助先；漁協、1/2補助、約1,900千円／基)

年度	舞鶴市漁協 整備筏数	宮津市漁協 整備筏数	府内トリガイ育成 経営体(従事者)数
H18	3基	2基	18経営体(36名)
H19	3基	2基	20経営体(36名)
H20	3基	2基	23経営体(46名)
H21	—	2基	24経営体(51名)
計	9基	8基	



海洋高校プールでの潜水技術講習会
(海洋高校教諭が、潜水技術や安全管理など指導)



トリガイ育成筏と育成技術研修

□近年の府漁業への新規就業状況

・参入区分別

(単位；人)

年	雇われ就業 (うら海洋高校卒)	自営就業 (組合員承継など)	合計
H14	15 (0)	23	38
H15	17 (1)	20	37
H16	16 (2)	18	34
H17	13 (1)	13	26
H18	20 (1)	9	29
H19	17 (0)	20	37
H20	14 (1)	11	25
H21	16 (3)	12	28
平均	16	16	32

主な就業先；大型定置網の従業員、底びき網の船員 (㊶海洋高校卒者は全て定置)

・世代別

(単位；人)

年	～29歳	30歳 ～39歳	40歳～	合計
H14	9	8	21	38
H15	12	4	21	37
H16	7	3	24	34
H17	5	10	11	26
H18	10	8	11	29
H19	10	17	10	37
H20	8	7	10	25
H21	11	7	10	28
平均	9	8	15	32

府では、平成18年度から府漁業関係者の「漁業就業支援フェア」(主催；全国漁業就業者確保育成センター)への参加を指導。

また、研修生受入れ事業(最長6ヶ月)を活用して、府漁業への新規就業に繋げている。

(実績)

H19 4名(大型定置網、底びき網各2名)が新規就業

H20 2名(底びき網)が新規就業

H21 2名(底びき網)が研修中



漁業就業支援フェア風景(H21. 8月、大阪市)
(舞鶴市漁協底びき網経営者が参加)